

四谷地区における区立小学校の現状と課題について

1 現状

(1) 四谷小学校

- ・児童数の増加により、令和11年度の学級数予測が24まで増加する（増築校舎建設により教室上限数は令和7年度の2学期より31となる。）
- ・児童数の増加により、校庭や体育館、プール等について、今後も運用上の工夫が必要。

学校名	実績	予測値					
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
学級数	20	21	23	23	23	23	24
教室上限数	21	21	31	31	31	31	31

令和5年5月1日時点

(2) 花園小学校

現在、単学級であり、当該地域からは児童数の増加を望む声が寄せられている。

学校名	実績	予測値					
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
学級数	6	6	6	6	6	6	6
教室上限数	12	12	12	12	12	12	12

令和5年5月1日時点

2 課題への対応

四谷小学校の普通教室の確保については、増築校舎の建設により対応をしていくが、校庭や体育館、プール等については、新たに増設することは困難である。

一方、花園小学校においては、現在、単学級であり、地域からは児童数の増加を望む声が寄せられているなどの課題があり、そうした課題を加味した対応策の一つとして、通学区の見直しや緩和等について検討する。

3 通学区の見直しによる効果

- ・校庭や体育館、プール等の利用にあたり、分散が可能となる。
- ・増築校舎分の普通教室も含めて、余裕が出るため、これまで普通教室に転用していた英語教室、算数教室、生活科室、特別活動室、会議室、メモリアルホール等の特別教室についての復活や、図書室等の拡張等についても必要に応じた対応をとることができる。
- ・見直し対象となる地域では、通学距離が近くなる前提で検討することにより、児童の通学環境の向上を図る。
- ・児童数が増加する学校においては、多くの友達との触れ合いの機会が増え、集団の相互作用や交流の充実が期待できる。